０２／１０／１３　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：私たちの偉大な神　２
聖書個所：イザヤ書　４０章１２－３１節

前回は、イザヤ書 40：1-11 から「私たちの偉大な神」は、(1)ご恩寵に溢れたお方であり（1-2 節)、(2)再びこの世に帰って来られるお方であり（3-5 節)、(3)真実なお方であり（6-8 節)、(4)真の羊飼いなるお方である（9-11 節）ことを学びました。
イザヤのメッセージは人々の心を頑なにするものでした。それはもう分かっていたことです。イザヤの預言のとおり、その死後 150 年経って、ユダ王国にバビロン捕囚が起こりました。しかし、神は必ずそこから救い出されることを約束してくださっていました。そのこともイザヤが預言したとおりのことでした。絶望を目の前にした時、私たちは弱り果てます。しかし、その時こそ神のメッセージは私たちを力づけ励ますのです。続いてイザヤ 40：12-31 から、さらに神がどれほど偉大なお方かを見てゆきましょう。

神の偉大さ
A. 全知のお方　　12-17 節
　この 12-17 節に書かれていることは、神だからこのようなわざができるのです。神の偉大さはその創造において現わされたのです。ここには神の偉大さが擬人法によって表現されています。山、丘と地の境を定めるのです。ヨブ記 38：5-11 に「あなたは知っているか。だれがその大きさを定め、だれが測りなわをその上に張ったかを。その台座は何の上にはめ込まれたか。その隅の石はだれが据えたか。そのとき、明けの星々が共に喜び歌い、神の子たちはみな喜び叫んだ。海がふき出て、胎内から流れ出たとき、だれが戸でこれを閉じ込めたか。そのとき、わたしは雲をその着物とし、黒雲をそのむつきとした。わたしは、これをくぎって境を定め、かんぬきと戸を設けて、言った。『ここまでは来てもよい。しかし、これ以上はいけない。あなたの高ぶる波はここでとどまれ。』と。」とあります。また、同じ 31 節から、神が星座を定められたことも書かれています。神はこの宇宙に秩序をもたらされたお方です。自然界の法則のすべて、その不思議は神の知恵による完全さによって保たれているのです。
　イザヤ 40：13 にある「主の霊」とは、神の心です。そして、公正、教え、英知は神のものです。箴言 3：19 を見ましょう。「主は知恵をもって地の基を定め、英知をもって天を堅く立てられた。」。また、ヨブ記 28：20-28 にはこのように書かれています。「 では、知恵はどこから来るのか。悟りのある所はどこか。それはすべての生き物の目に隠され、空の鳥にもわからない。滅びの淵も、死も言う。『私たちはそのうわさをこの耳で聞いたことがある。』しかし、神はその道をわきまえておられ、神はその所を知っておられる。神は地の隅々まで見渡し、天の下をことごとく見られるからだ。神は風を重くし、水のはかりで量られる。神は、雨のためにその降り方を決め、いなびかりのために道を決められた。そのとき、神は知恵を見て、これを見積もり、これを定めて、調べ上げられた。こうして、神は人に仰せられた。「見よ。主を恐れること、これが知恵である。悪から離れることは悟りである。」。人間に、国々に信頼することの空しさを教えています。すべてのことを知っておられる神、治めておられる神を私たちは知るべきです。

Ｂ．全能なるお方　　18-26 節
　この個所は無力な偶像との比較において、神の全能さを教えています。バビロンは多神教、偶像礼拝の国でした。18 節は口語訳ではこのようになっています。「それで、あなたがたは神をだれとくらべ、どんな像と比較しようとするのか。」。どんな人間をまことの神と比較しようとするのか、神に倣うものとするのか、といいます。「似姿」とは像、イメージのことで、人間の手で作ったものに過ぎません。「似せようとする、なぞらえ、」は未完了形で、今もそれが続いているのです。偶像は被造物であり、動かないのです(20 節)。イザヤ 44：9-19 「偶像を造る者はみな、むなしい。彼らの慕うものは何の役にも立たない。彼らの仕えるものは、見ることもできず、知ることもできない。彼らはただ恥を見るだけだ。だれが、いったい、何の役にも立たない神を造り、偶像を鋳たのだろうか。見よ。その信徒たちはみな、恥を見る。それを細工した者が人間にすぎないからだ。彼らはみな集まり、立つがよい。彼らはおののいて共に恥を見る。鉄で細工する者はなたを使い、炭火の上で細工し、金槌でこれを形造り、力ある腕でそれを造る。彼も腹がすくと力がなくなり、水を飲まないと疲れてしまう。木で細工する者は、測りなわで測り、朱で輪郭をとり、かんなで削り、コンパスで線を引き、人の形に造り、人間の美しい姿に

仕上げて、神殿に安置する。彼は杉の木を切り、あるいはうばめがしや樫の木を選んで、林の木の中で自分のために育てる。また、月桂樹を植えると、大雨が育てる。それは人間のたきぎになり、人はそのいくらかを取って暖まり、また、これを燃やしてパンを焼く。また、これで神を造って拝み、それを偶像に仕立てて、これにひれ伏す。その半分は火に燃やし、その半分で肉を食べ、あぶり肉をあぶって満腹する。また、暖まって、『ああ、暖まった。熱くなった。』と言う。その残りで神を造り、自分の偶像とし、それにひれ伏して拝み、それに祈って『私を救ってください。あなたは私の神だから。』と言う。彼らは知りもせず、悟りもしない。彼らの目は固くふさがって見ることもできず、彼らの心もふさがって悟ることもできない。彼らは考えてもみず、知識も英知もないので、『私は、その半分を火に燃やし、その炭火でパンを焼き、肉をあぶって食べた。その残りで忌みきらうべき物を造り、木の切れ端の前にひれ伏すのだろうか。』とさえ言わない。」。ローマ 1：20「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」。また、詩篇 147：4-5 ではこのように言います。「主は星の数を数え、そのすべてに名をつける。われらの主は偉大であり、力に富み、その英知は測りがたい。」

21 節の「知らないのか、聞かないのか。」も未完了形で、人間の愚かさは続くと言います。「告げられなかったのか、悟らなかったのか。」は完了形です。もうすでに、神の偉大さは知らされている、しかし、それを人は悟らなかった、というのです。自然界をもって、神はその力を示されています。どこの国であっても…。そして、22 節から、神の偉大さは、(1)すべては神の力によって造られ、神がすべてを治めておられること、(2)主権者であり、どの指導者であっても神の御手のうちにあるといいます。

26 節は悔い改めへの勧めです。もう一度自然界を見よ、と。神の英知は測り知れないのです。

C．真実なるお方　　27-31 節

力の源であるお方です。1-11 節でも神が真実なお方であることを学びましたが、ここでもう一度、神の真実さを見ましょう。「ヤコブよ。イスラエルよ。」との呼びかけは、神がその民を忘れておられないことの現われです。「私の道」とは日々の生活の中にある苦しみ、愚痴、です。それは間違った神観をもっているから、それが原因なのです。28 節以下は、神が望んでおられる最高の祝福ある生き方が示されています。それは神の偉大さを覚えることです。「主」は契約を守られるお方です。すべてを創造され、力に満ちておられ、知恵に満ち溢れたお方です。ローマ 11：33-36「ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。なぜなら、だれが主のみこころを知ったのですか。また、だれが主のご計画にあずかったのですか。また、だれが、まず主に与えて報いを受けるのですか。というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。」

神が活気をつけ、そして、つけ続けてくださるのです。私たちは弱く、すぐに疲れてしまいます。しかし、力、励ましは神から来ます。31 節、「新しく力を得、」とは、私たちの弱さが神の力と交換されることです。鷲を舞い上げてくれる神の力によって…。疲れた私を神は力づけ、上へと持ち上げてくださるのです。なんという励ましでしょう！！

⇒　いろいろな所で懸命に働く私たちの中に、不平不満はないでしょうか？私たちが見るべきものは、周りの人々ではなく神であるべきです。神から新しい力を得るのです。神の助けを求めるのです。神の時を待つのです。神はこのような私たちに喜びと希望を与えてくださいます。